

特36

972

服部應賀著
百番觀音靈驗記

坂東

百番觀音靈驗記

坂東順禮三十三所目錄

第一	相模杉本寺	十三	武藏金龜山	廿二	常陸佐竹寺
第二	同 岩殿寺	十四	同 弘明寺	廿三	同 佐白山
第三	同 田代堂	十五	上野白石山	廿四	同 兩引山
第四	同 長谷寺	十六	同 水澤寺	廿五	筑波大御堂
第五	同 飯泉山	十七	下野出流山	廿六	常陸清瀆寺
第六	同 飯上山	十八	日光中禪寺	廿七	下總飯沼山
第七	同 金目山	十九	下野大谷寺	廿八	同 滑河寺
第八	同 星谷寺	二十	同 西明寺	廿九	同 千葉寺
第九	武藏慈光寺	廿一	常陸八講寺	三十	上總高倉寺
第十	同 岩殿山			三十一	同 笠森寺
第十一	同 吉見寺			三十二	同 清水寺
第十二	同 慈恩寺			三十三	安房那具寺

編者 万亭應賀

坂東十五番



湯山の平野の渡の
 優婆塞の
 川の天狗の
 橋引れ
 て娘めを
 山よりの
 死文と
 久十二面の大士祝の世と彌拵
 ちをひびく大士の折の枝ゆしり
 姿と刑とて重石の上の妻を
 足後湯の地のある氏が十二の
 厄難除の奉大士作の折と
 け弁をとれとて大難をまぬ



人の影るらんあはれ
 杉ぬちのひの影りまきこのあ

坂東十六番



湯山の平野の渡の
 優婆塞の
 川の天狗の
 橋引れ
 て娘めを
 山よりの
 死文と
 久十二面の大士祝の世と彌拵
 ちをひびく大士の折の枝ゆしり
 姿と刑とて重石の上の妻を
 足後湯の地のある氏が十二の
 厄難除の奉大士作の折と
 け弁をとれとて大難をまぬ

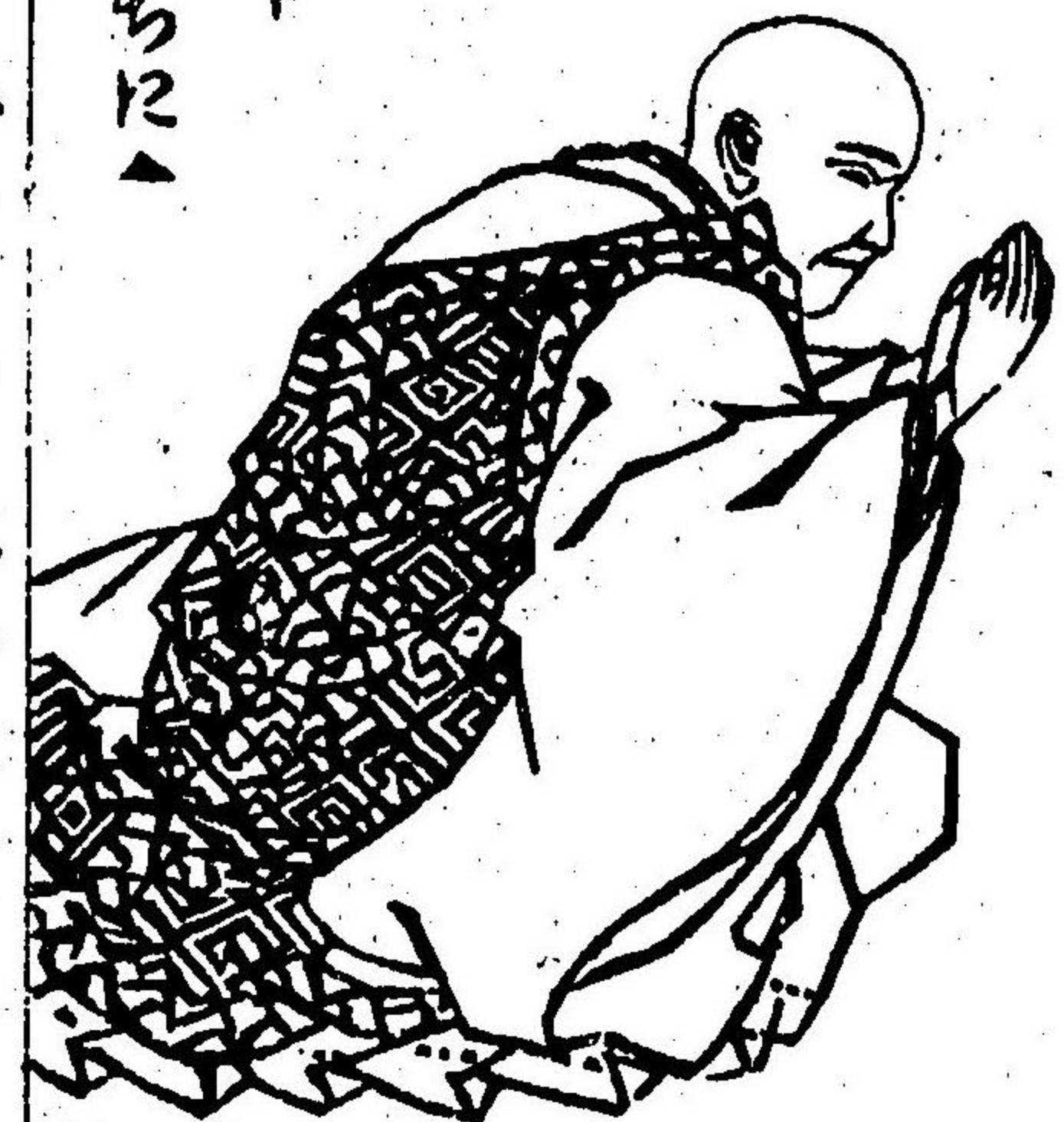


たのまあるらんあはれ
 湯ぬちのひの影りまきこのあ

坂東十七番



高山の河の美徳の十二面
春もまの自然なる弘法
大徳をさしとて妙のぞ
きりやとまの人の
あまのわが外にお姿を
ゆとんとお姿をせうが
らせんとお木の枝のさか
あまのほまごをあらう
たまごをさしとて一徳のうらた



うらたの
まの
おんれきの
おまう

あまのわが外にお姿を
ゆとんとお姿をせうが
らせんとお木の枝のさか
あまのほまごをあらう
たまごをさしとて一徳のうらた

坂東十八番



高山の河の美徳の十二面
春もまの自然なる弘法
大徳をさしとて妙のぞ
きりやとまの人の
あまのわが外にお姿を
ゆとんとお姿をせうが
らせんとお木の枝のさか
あまのほまごをあらう
たまごをさしとて一徳のうらた

おまの
おまの
おまの
おまの

あまのわが外にお姿を
ゆとんとお姿をせうが
らせんとお木の枝のさか
あまのほまごをあらう
たまごをさしとて一徳のうらた

坂東廿一番



常陸八講山 日輪寺 十一面堂
あまの園山弘法大師の
加護ふりて鬼城
大羅丸を遣
治し又云
和の
の
より波磨の
志珠とさうり
て那須野
系の殺生石と
打碎し又該の



天下あまねく
あるところ
あり

あまの園山弘法大師の
加護ふりて鬼城
大羅丸を遣
治し又云
和の
の
より波磨の
志珠とさうり
て那須野
系の殺生石と
打碎し又該の
あまの園山弘法大師の
加護ふりて鬼城
大羅丸を遣
治し又云
和の
の
より波磨の
志珠とさうり
て那須野
系の殺生石と
打碎し又該の

坂東廿二番



常陸妙福山 佐竹寺 十一面堂
あまの園山弘法大師の
加護ふりて鬼城
大羅丸を遣
治し又云
和の
の
より波磨の
志珠とさうり
て那須野
系の殺生石と
打碎し又該の



あまの園山弘法大師の
加護ふりて鬼城
大羅丸を遣
治し又云
和の
の
より波磨の
志珠とさうり
て那須野
系の殺生石と
打碎し又該の

あまの園山弘法大師の
加護ふりて鬼城
大羅丸を遣
治し又云
和の
の
より波磨の
志珠とさうり
て那須野
系の殺生石と
打碎し又該の
あまの園山弘法大師の
加護ふりて鬼城
大羅丸を遣
治し又云
和の
の
より波磨の
志珠とさうり
て那須野
系の殺生石と
打碎し又該の

坂東廿五番



あまの天竺宗廟
 のまじり
 天竺地蔵
 の足地は
 てんてん
 僅一人入道の
 儀の弘法大師の
 惟多の住持高僧の終極の教者
 を作り付する徳と持事のくさ
 的終一統一皇と実業の心
 志を海運のありま
 けの海運とよん心人々
 お死せしめりて
 尚その終極の心を
 村に又終極と承
 天のまりのせり



御者山花もてりて
 神や佛のみくまらざる

坂東廿六番



乃奉大士あまの南面
 のまじり
 のまじり
 大徳の住持あまの
 底生内非清浄の文
 と観道いふまは
 まづいふ色則と
 あまの
 おん
 結縁あまの
 あまの



秋らるる今まりのあまの
 清らるる今まりのあまの

坂東廿七番



あまのなかまの
 外見五年の春
 飯沼の浦と船来
 の名恋との二人が鉦子
 浦敷が瀬の沖に船の
 中は感得せし若船
 まうは二人の
 涙まつのみ
 け大士の侍
 僧とありて清
 六の親清又
 長流の香長と
 名とありてあ
 なる

たぐひもあめみせ何と飯沼の
 海き世のひやむくもくぞう



坂東廿八番



兼和五年の夏香候後をの如くみ
 ろの七人の死傷殿にむね頼
 もと小田守おの治全教と
 ぞ甘さるる救ひがこれ
 ば之室お初教せし小田川の
 家といひ女あまのてけ小田川の
 あちよりりたある甘さを香ほめ
 るの利益 あのとごとく如くその
 甘さを
 へに
 二寸の
 んんをぬく
 きろを救ひけの
 閑泰と成られる

つとね出る葉の水とちあ川の
 淵うちのひの船ぞうこのる



坂東三十一番



東
上総
大慈山
笠森寺

湯山の平昔ハ楠自焚の
古本めて関泰ハ
信者大沙り
湯山ろくろ那
あぐらるる
義佐の
姉お後利
ハけ親者
伝ト又尾井上むの
えん吉み我
田ろ名堂と
あせまのうせー
功徳ふよう
朱紫帝の



日しと書るるハ隠れよ我ひさり
くか枝にけろのむまをらるる

坂東三十二番



上総
音羽山
清水寺
千手堂

湯山の平昔ハ楠自焚の
古本めて関泰ハ
信者大沙り
湯山ろくろ那
あぐらるる
義佐の
姉お後利
ハけ親者
伝ト又尾井上むの
えん吉み我
田ろ名堂と
あせまのうせー
功徳ふよう
朱紫帝の



湯山の平昔ハ楠自焚の
古本めて関泰ハ
信者大沙り
湯山ろくろ那
あぐらるる
義佐の
姉お後利
ハけ親者
伝ト又尾井上むの
えん吉み我
田ろ名堂と
あせまのうせー
功徳ふよう
朱紫帝の

上巻
あふ

はらりあふる湯のま相山
まらるる人のん信る

坂東三十三番



安房
補陀洛山
那具寺
千手観音堂

梅堂國政画

坂東の事考ハ杉本大士ハ海舟
 云ク感得ト云ハ天竺の
 仏教と折リ合フ趣キ有リ昔武州
 鹿野の志持他リ者五七人と坂東
 巡礼と約セガ病ハ放シ物不
 成ク世ト苦ト死トナリ
 今十九日ハ祝祭有リ
 未定成リ者放シテ
 此寺ニおびこる者
 信ト云レト
 那古西ノ村ノ
 此礼ト如合ナレバ
 門ト云レモモ
 リト云レバモ
 檢クシテ云ルト
 杖ノ杖



今九日ハハ
 岸ノ河ノ波
 法ノころ
 那具寺
 法ノころ

